

第19回福井県嶺南地域流域検討会の審議内容のご紹介

北川水系の河川整備について

北川水系の河川整備について、河川管理者より説明が行われました。

- 前回（第18回）における質問事項の回答
- 北川水系における治水に関する基本事項
- 北川水系における環境に関する基本事項
- 住民説明会の開催予定について

◎委員からの主な意見

◆治水について

1. 江古川について、計画的に河川工事を実施すとのことだが、その具体的内容は？
（区間、工事内容）

⇒【事務局】江古川の対策の実施にあたっては、今後も時間をかけて地元や自治体と協議を行う必要があり、今回の整備計画では、その対策の必要性・方向性を述べるに留めたいと考えています。今後、具体的な計画ができた段階で、流域検討会で再度審議いただき、整備計画の内容を変更する方向で考えています。

2. 江古川は、県営圃場整備により整備されてきた川だと理解しているが、未改修と評価されているのは、土地改良で造った水路では十分ではないということなのか。

⇒【事務局】圃場整備と河川整備とでは、保全する対象やその計画規模が異なっているため、通常河川整備で行う場合の整備規模に至っていないということで未改修という表現をさせていただいております。

3. 浸水する可能性が高い土地を農地に転用する際に、宅地化を認める際の条件として少し嵩上げをしてもらう等の事前の対策は、現在の法制度のなかで行えないものなのか。

⇒【事務局】河川管理者が直接土地利用について規制を掛けることについては、これまで制度上十分に確立された状態にはありません。ハザードマップによる浸水エリア等の公開や住民説明会等で情報を提供することで周知を図っていきたいと考えています。

4. 河内川ダムについては、河川整備基本方針のなかで、高塚地点において100m³/sを調節する貯留施設として位置付けられているものとする。

◆環境について

1. 魚道の改修については、今後、どのように整備していくべきかを整理し、この検討会で議論をすべきではないかと思う。

⇒【国土交通省】国の北川の流域委員会でも同様の意見を頂いており、大変大きな課題であると認識しています。治水、予算、他組織との連携等、様々な問題が残っており、今後、十分に検討や調整を行っていきたいと考えています。



江古川：平成16年10月20日：浸水状況

2. ダム湖ができて、明神谷川の上流域等に生息域が残るとのことであるが、問題点としては、他の個体と交雑する機会が非常に少なくなり、近親交配が起り生存率が非常に下がるのが考えられる。遺伝的多様性の問題を考えると、現時点でのヤマメノDNAを調べておいた方がいいのではないか。

また、多様性については、ダム湖ができた後に人為的に外来魚等の生き物を掘り込むなどといった問題も危惧される。

⇒【事務局】近親交配については、新たな知見として、今後、善処していきたい。



検討の結果、明神谷川におけるヤマメのDNA分析については、毎年漁協組合による稚魚の放流が行われることから、正確な調査ができないとの判断により、実施しないこととしました。

3. ダムを利用して、キャンプ場やバーベキュー施設といった付帯施設の設置を計画しているのか。

⇒【事務局】今のところ、公園や船を浮かべるといった湖面利用等も含めて、そのような計画は考えていません。

4. ダムの環境影響調査としてクマタカの調査が行われているが、この調査結果については、将来的な希少種全体の保護への取り組みといったものに基礎データとして活用していただけることを希望する。



◆水質シミュレーションについて

1. ダム貯水池の富栄養化の予測方法とその結果について詳しく教えて欲しい。
2. 植物プランクトンの影響について、木津川のダムの植物プランクトンの濃度と比較してみたい。
3. 沈降しない程度の粒径での濁度のシミュレーションは可能なのか教えてほしい。
4. 資料では、ダム完成後に下流の濁水濃度が低下する結果となっているが、これは北川の濁水の原因が河内川であったということの意味するのか。
 (⇒1～4については次回検討会で回答)

◆住民説明会の開催予定について

1. 説明内容
 - ① 河川整備基本方針・河川整備計画について（河川法）
 - ② 北川水系の河川の現状と課題について（治水・利水・環境）
 - ③ 河川整備計画策定河川の選定と整備の考え方について
 - ④ 河内川ダム計画について
2. 開催日程および場所

開催地	小浜市	若狭町
日程	平成20年7月5日(土)	平成20年7月7日(月)
開催場所	サン・サンホーム (小浜市総合福祉センター)	若狭町歴史文化館 (上中公民館)